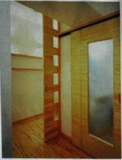

写真 1：玄関ホール梁型処理のデザイン

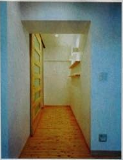

写真 2：狭い空間を利用したギャラリースペース

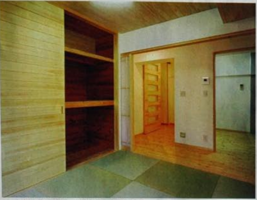

写真 5：和室のデザイン　「スギ・ヒノキ」インテリアの風景

「木のある住まい」マンションリフォーム

マンションは施工範囲の制約はありますが、戸建住宅並みの、心地よい「木の家リフォーム」は可能です
応募作品は、建築後30年の住み慣れた市街地マンションをご結婚後の新居として再生した事例。ご希望は
施主ご夫妻がインターネットで情報収集した、開放的で「明るくモダンなインテリア」。 しかし現況では
梁型がネックとなり「希望条件の実現」「木材の仕上がり感」「完成満足度」等は把握しにくい状況でし

そこで施主との打ち合わせは、これらのことを簡潔に伝え「考え方を手描きスケッチ」でインターネットを
利用した会話方式による確認作業を提案し、相互に書き込みしながら完成後の期待感がすれ違わないように
あくまでも「自筆・手描きによる会話」によって「完成したイメージを共有」することに徹した。

「木のある住まい」マンションリフォームは、間伐材や製材時の端材、立派に育った木を「適材・適所」で
使いこなしながら、木材にかかわる仕事をしているプロと施主が共働作業で実現する新しい住まい創りです
生活の汚れやキズはつきますが、家族の成長と共に、きっと美しい住まいの風景になっていくことでしょう

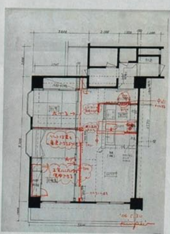

図1：施主ご夫妻と合意した平面プラン

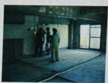

写真 1：内装解体撤去後のスケルトン空間

木材使用に関するデータ
施　　工：平成18年6月8日～7月15日
使用木材：【ひのき間伐材・小径木利用】
　台形集成材二次加工品
　※床暖房対応フローリング
　【製材時の端材利用】
　桧壁板＝無節板
　杉天井板＝白身無節板
　※準不燃処理
　杉クロゼット用板＝白身上小節板など
　杉下地用板＝源平並材
　【立派に育った木】
　桧造作材、キッチンカウンター
　桧大黒柱
品質管理：床材＝人工乾燥・台形集成材
　壁材＝天然乾燥・人工乾燥併用
　桧柱＝人工乾燥材
　造作材＝人工乾燥材
環境品質：木材使用量の合計＝約5㎥（杉3、桧2）
　炭素固定量＝0.97t
　吸収した二酸化炭素量＝3.54t
　森林整備に貢献した面積＝約0.8ha

写真 3：我が家の桧大黒柱
ヒノキの心地よいインテリア、心の表現として
こだわったのは、故郷・尾鷲桧でした。
この大黒柱は、速水林業の森から生産された
（180角3面無節材）立派に育った桧です。

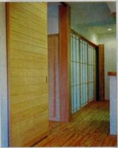

写真 4：マンション桧大黒柱のある風景

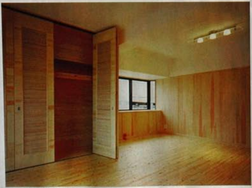

写真 6：主寝室のデザイン

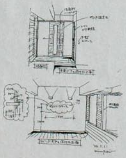

図2：玄関ホール梁型部分の処理

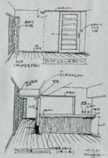

図3：リビング梁型交差部分の処理

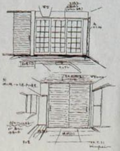

図4：和室のデザイン

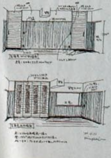

図5：主寝室のデザイン